

Lend a Hand
手を貸そう国際ロータリー第2750地区多摩東グループ
東京多摩グリーンロータリー・クラブ

Weekly Report



クラブ会長テーマ 手を貸そう! そして強く握ろう!

2004-6-2 第654回例会 NO. 14-43 2004-6-9 発行

◎司会

SAA委員会 萩生田茂夫

◎点鐘

会長 大松 誠二

◎国歌斉唱

ロータリーソング「奉仕の理想」

ソングリーダー 吉沢 洋景

◎お客様紹介

- ・東京都南多摩保健所 所長
- ・岡山西南RC

会長 大松 誠二

渡辺 直大 様
椎原 裕二 様

◎会務報告

会長 大松 誠二

- (1) 今年度も、今月 6 月の 1 ケ月を残すのみとなりました。地区、分区も最後の会長幹事会が予定されています。私自身、初め考えていたことの半分も出来ませんでした。各委員会に於いては、この 1 ケ月、心残りが無い様、十分活動が続けていただきたいと思います。
- (2) 週報と「ロータリーの友」について
「友」3月号に赤尾会報委員長の投稿が載っています。ロータリークラブの規定審議会で修正された「1 業種一会員」の原則の再確認がなされるか、どうかを注目のしたいと言う趣旨です。私たちも重大な関心を持って見守りたいと思います。(ロータリークラブの今後の行方を占うことになると思います。)

◎幹事報告

幹事 藤本 吉文

- (1) 本年度最終例会の出席確認を回覧致しますので、会員とご家族名をご記入ください。
- (2) お花見親睦旅行と特別事業の会計報告書を配布しています。
- (3) 回覧: パシフィックベースINGの情報誌「ROTARY ISLANDS」/多摩青年会議所『腕白相撲』/「はたの星」の映画案内/ふくしだより/IMのホ

ストクラブ東京狛江RCよりIM 収支報告書と実行委員長の早瀬川様よりお礼の手紙が来ましたので回覧します。/先月5月20日 よみうりゴルフ倶楽部で行われました東グループ親睦ゴルフコンペの会計報告と成績表が来ましたので回覧します。

◎次年度会務報告

次年度会長 菊池 敏

次年度役員の欠員補填にあたり、先般委嘱しておりました指名委員会より答申がありました。これを受け、5月26日開催の被選理事会に於いて、会長エレクトを北村幸彦会員とすることを決定しました。

【委員会報告】

◎出席報告

出席委員会 小林 正

- ・会員総数 42名
- ・出席義務者数 41名(出席免除者1名)
- ・出席者数 33名
- ・欠席者数 8名(事前MU1名)
- ・出席率 82.93%
- ・欠席者: 藤原 正範、平野 行廣、北村 幸彦、小泉 博、小坂 一郎、高野 範城、海野 榮一、由井 眞司
- ・補填MU: 海野 榮一 5/23 国際大会

5/19 最終訂正出席率 75.61%

◎ニコニコBOX

親睦活動委員会 宮村 宏

岡山西南RC 椎原 裕二様

先日の世界大会での多摩グリーンRCと岡山西南RC親睦ゴルフコンペ、大変お疲れ様でした。残ったお金、全部ニコニコです。
大松 誠二 渡辺保健所長様、卓話ありがとうございます

東京多摩グリーンロータリー・クラブ事務局

東京都多摩市落合1-43 京王プラザホテル多摩561号
TEL 042(372)6463 FAX 042(372)6491
E-mail tamagrc@cello.ocn.ne.jp

【例会場】京王プラザホテル多摩・たまつばき4階

【例会日】●毎週水曜日12:30 ●月の最終例会18:30

【会長】大松誠二 【幹事】藤本吉文

【クラブ会報委員長】赤尾恭雄 【副委員長】正房正孝

【委員】遠藤二郎・平野行廣・佐伯和廣・澄川昇・高木淳光・由井眞司・小田泰機

す。

藤本 吉文 東京都南多摩保健所 渡辺さんの卓話
楽しみです。田中さん、大阪大会の写真あ
りがとう。

萩生田政由 大阪世界大会ではお世話になりました！

関岡 俊二 9月に初孫が生まれる予定ですので・・

赤尾 恭雄 渡辺様、興味ある卓話、楽しみにしていま
す。

根本 泰守 娘が硬式テニスダブルスで東京都代表とな
り、全国大会に出場します。椎原さんに負
けていられないですよ！ ネェ、宮村様

澄川 昇 久しぶりに出席しました。これからは出ま
すので宜しくお願いします。

足立潤三郎 渡辺所長、卓話宜しくお願いします。

伊澤ケイ子 田中さん、国際大会の写真ありがとうございます。

津守 弘範 保健所所長 渡辺 直大様、卓話楽しみに
しております。

杉野志保子 所長さん、ようこそ。痴呆のお話、楽しみ
です。

本日の合計¥18,378 (累計¥881,439)

◎卓話『老人性痴呆とその予防』(要点)

東京都南多摩保健所 所長 渡辺 直大 様



I. 急速に進む少子高齢化

2000年(平成12年)総人口に占める高齢者率 17.4%
2005年(平成17年)総人口に占める高齢者率 19.5%
2050年(平成62年)総人口に占める高齢者率 35.7%
※日本の人口は2006年(平成18年)1億2700万人を

ピークに以後減少に転じ、

東京の人口は2015年(平成27年)1250万人をピー
クに減少に転ずると予測される。

※老人性痴呆は高齢者の4~6%

2002年 約180万人→2010年 約210万人

II. 老人性痴呆とは

■いわゆる「ぼけ」と「痴呆」の違い

「ぼけ」 物忘れを自覚し、失敗を防ぐ工夫をす
る。

「痴呆」 数時間前のことを忘れる。

■「脳血管障害型痴呆症」と「アルツハイマー型痴
呆症」の2種類

「脳血管障害型痴呆症」

脳出血や脳梗塞が原因で、血流障碍のため、
十分な酸素や栄養分が行き渡らず、脳細胞の
機能低下。まだら痴呆と言われ、人格は良く
保たれる。

危険因子は、加齢、高血圧、糖尿病、喫煙、
各種心疾患。

「アルツハイマー型痴呆症」

脳そのものが萎縮してしまうために起こる。
人格崩壊が激しい。

脳血管障害型	男性 54%、	女性 34%
アルツハイマー型	男性 21%、	女性 39%
鑑別困難	男性 14%、	女性 14%
脳腫瘍、外傷等	男性 10%、	女性 11%

III. その予防

「脳血管障害型痴呆症」

高血圧、高脂血症、喫煙、肥満、糖尿病予防(血
管壁に脂肪)

緑茶(カテキン)、果物野菜、青魚、いか、貝、
海藻類、笑い

「アルツハイマー型痴呆症」

社会活動に参加、老若男女との交際、定期的運
動、日記、外出、旅行



◎点鐘

会長 大松 誠二

(例会担当：遠藤 二郎)

6月は ロータリー親睦活動月間です

「親睦」は、「奉仕のエネルギー」

そして、「奉仕」は、「親睦のエネルギー」

「親睦と奉仕」は、

「ロータリーのバランスの取れた両輪」

ポール・ハリスを我々の心に！ Part 51

晩年のポールは、出来れば年に一度、ジーン夫人を伴って故郷のウォリングフォードの谷間を訪れ、楽しい子供時代の思い出をジーンに話して聞かせることにしていた。ただし、観光客の多い夏を避けて、秋の紅葉の季節に行くことにしていた。

予期していることではあったが、昔と比べて様子が大変変わっていた。人口はほぼ同じだったが、丘の上の墓地にひっそり眠っている人は、思ったより増えていた。ポールと同年代の人々は大部分が亡くなり、代わりに子供や孫たちが住んでいた。中には、美しい谷間に惹かれたり、静かな平和な村に魅せられて引っ越してきた人達もいた。

昔は気も付かなかった新しい産業が興っていた。例えば、当時はクリスマス・ツリーが大都市で売れるようになるなんて、考えてもみなかった。ポールの子供の頃は、クリスマス・ツリーなんか立てたこともなかった。暖炉のある家では暖炉の脇に靴下を掛け、暖炉のない家では石油ストーブの後ろの棚に靴下を吊してサンタクロースの夢を見たものだった。

クリスマス・ツリーが流行りだした頃は、商人は手当たり次第にもみの木を切って、苗などは植えなかった。そして、クリスマス・ツリーになったもみの木は、大勢の人を楽しませてはくれたが、儚い一生だった。ポールは、もし自分に意見を求められれば、「古い良き時代に戻って、暖炉の脇に靴下を吊しなさい。そして、自然の法則に従って、もみの木は切らないで野山の飾りにして置きなさい」と言うだろうと。

ところが、先見の明のある人が傑作なもみの木の植林方法を開発して、新しいクリスマス・ツリー産業を生み出した。それはつまり、周囲の木々のバランスをよく考えて切るもみの木を選べば良く、また、良材を育てるために邪魔になる木を間引いてクリスマス・ツリーに利用することだった。

最近では村の人達は、羊歯の葉を梱包して都会の市場に出荷し、利益を上げていた。故郷の谷間には羊歯が無尽蔵に生えているし、買手も多いので大学生が夏休みのアルバイトとして稼ぐには格好の仕事だった。都会の花屋は、花を出荷する時に花の周りに沢山の羊歯を詰め、花が痛まず色艶が失せないようにしていたが、非常に有効な方法だった。

ポールは、少年時代と違ったウォリングフォードの谷間を実感した。

(コーナー担当：赤尾 恭雄)

『ロータリー知識』 入門編 「新会員とクラブ奉仕委員会のために」

ロータリーでは会員を選ぶのに多少の例外はあっても一業一人という職業分類の原則を守り、出来るだけ地域社会の違った業種から代表者を集めるようにしています。そうすれば同業者間の利害関係を離れて、胸襟を開いて語りあえるし、また自分の知らない世界の知識を得ることもできるというものです。またクラブのほうから見てもそれによって地域社会のあらゆる職業を網羅し、すべての業界にロータリー精神を滲透させることができるといことになるでしょう。

さてしからば、ロータリー精神とは何なのか。これを説明するのはたやすいようでもあり、また難しいようでもあり、結局ご本人が腹の底から会得するには、ロータリーの経験のある程度積まなければなりません。ただ言葉で簡単に表現すれば、一人一人が他人の立場に立ってものを考え、他人のお役に立つような行動をしようということです。「情は人の為ならず」というが、結局はそれが自分も仕合せになる道である—こういう思想がロータリー精神であり、ロータリーのいう奉仕というのはそこから出てくる行為であります。そしてロータリー・クラブという組織は、そういう精神を鼓吹し、そういう奉仕の道に熱意を燃やす人を育てようとする学校なのです。あなたは今この学校に入られました。ところがこの学校には入学はあっても卒業ということがありません。そこがまたこの学校のすばらしい所で、あなたはロータリーを学ぶに従って楽しくなり、ロータリーの道の無限であることを知るに至るでしょう。どんなに立派な会員でも、人間である限り未完成で、だからこそまたロータリーへ来たら、みんな平等だということです。ここへ来たら誰に遠慮することはありません。胸襟を開いて語り合いまし

よう。

佐藤千壽 東京江北 R.C. (P.D.G.)「ようこそロータリーへ」(1983)から

(コーナー担当 遠藤 二郎)

★「ロータリーの友」拾い読みコーナー★

6月号 《言いたい聞きたい》より

会員減少—内因外因

高崎東RC 豊泉 清 氏

(第2840地区 群馬県 産婦人科)

「退会防止と会員増強」という標語が、声高に叫ばれてから、どれくらいの年月が過ぎたであろうか。

わが高崎東ロータリークラブでも、ここ数年は新入会員が途絶えている。あと一歩で、七〇人の大台に乗るところまで、着実に会員が増え続けてきたが、ここ数年、急に退会者が目立つようになり、瞬く間にわずか五〇余名になってしまった。不景気だから仕方がない……という理論だけが、まかり通っている。

会員減少の模様をつぶさに観察してみると、ロータリー歴の短い会員の退会が、顕著である。熱心に勧誘して、せっかく入会に漕ぎつけたのに、顔や名前を覚える前に、いなくなってしまう新入会員が特に目立つ。「不景気」といわれる時代でも、入会する会員がいるのであるから、会員減少の原因は不景気……という理論は、通用しない。

会員減少の原因に関し、『友』誌本年一月号の「魅力あるロータリーをつくろう」と題するガバナー座談会の記事が、大いに示唆に富んでいると一読して感じた。

……最近のロータリーは形骸化している。色あせてきた。マンネリズムに陥っている。魅力がない。会員をつなぎ止めておく求心力が弱まっている等々……という発言が、次々に登場する。

ロータリーの魅力の喪失は、座談会に出席した、複数のガバナーの共通認識である。「魅力あるロータリーをつくろう」という標語を掲げること自体、会員減少という、異常事態に直面している組織の執行部一同が、そろって抱えている危機意識の反映にほかならない。

ある現象が起こった場合に、その原因を内因と外因に分けて、考察を試みる必要がある。

会員減少を論じる際に、不景気は社会環境だから外因であり、魅力の喪失は組織に内在する原因だから、内因と位置づけられる。不景気という外因と、魅力の喪失という内因が同時期に重なって作用している、と私は分析してみた。

批判の意見を聞かせていただければ、幸甚である。

(コーナー担当: 正房 正孝・高木 淳光)

多摩センター花飾り

